

北の大地



ブドウ畑を眺めながらワインやフードが楽しめる「八剣山キッチン&マルシェ」。
店内では自社製加工品や地域農産物も販売し、地域の魅力発信の拠点となっています。

札幌市経済観光局農政部農政課

札幌市中央区北1条西2丁目市役所7階南 011-211-2406

<http://www.city.sapporo.jp/keizai/nogyo/index.html>

農業交流関連 施設

…冬の農家レストラン編



八剣山K&Mのワインと食事、ピーツ入りのカレーや地元野菜を使用したピザが楽しめる



アグリスケープの平飼いたまごとと小松菜のソース、同じアブラナ科のブロッコリーを添えて



西区小別沢地区に開設された農家レストラン「アグリスケープ」。「農風景」の名のとおり里山的景観の残るこの地域になじみながらも特別な存在になりつつある。「燻製をかけた男爵イモのコロッケ」は札幌黄タマネギを加えて作ったシンプルなコロッケにサクラチップとビートモスで燻製をかけた、素材の味が楽しめるディープな一品で、この状態でサブされるというのだからたまらない。レストランは完全予約制だが、カフェは予約なしで利用可能。
営業時間：(直売/加工販売) 10:00~16:00、カフェ11:30~※店内またはテイクアウト (レストラン)ランチ12:10~15:30、ディナー17:40~22:00/通年営業、不定休

札幌市の都市計画では、市街化調整区域での販売店設置は規制されています。農政部では、農業振興のため、農産物の地産地消や農業経営の6次産業化を行う直売・加工販売所に限定して規制緩和する認定制度を作り、農業交流関連施設(通称、「農業交流施設」)として開設を支援しています。今回は、農家レストランに取組む農業者に、就農経緯や6次産業化のきっかけ、経営のことなどについて聞きました。(取材時期：令和3年10~11月)



フレンチシェフが新規就農本格農家レストラン
「AGRISCAPE」
(アグリスケープ)
吉田夏織さん



令和3年10月28日オープン
とれた小屋がパワーアップ
「ファームレストラン
ベジタベール」
藤井徹さん



営業時間11:00~17:00
平日レストラン~15:00
通年営業、水曜定休

▶札幌黄の見学が就農・レストランのきっかけ

○レストランに仕入れていた札幌黄の畑を見る機会があって、農業に興味を持ちました。畑の管理を継ぐことになり、3年間の農業研修後、制度を活用して農業交流施設を開設しました。

▶農業は大変。目標に向かってあきらめない

○多品目栽培(西洋野菜・花・ハーブ・果樹等約150種)と小規模畜産(養鶏・養豚)により家畜に残渣を与えて、たい肥を得る循環型農業を实践。技術は他の農家に教えてもらうこともあります。一番必要なのは、目標に向かい困難を乗り越えるバイタリティですね。

▶調理提供を前提に品種選び、食農一体の農業

○農産物はすべて加工提供。どんなに料理にしようか考えて種を選ぶのが楽しく、また、育てながら食材としての特性がわかってきて、レシピをアレンジすることもあります。自ら作る作物には愛着も湧きますね。

○この地域には色々な人や、繋がりがあります。客席に地元木工作家の椅子を使ったり、近くの他の農家の野菜を使った料理を出すこともあります。

○レストランは予約制ですが、カフェ(ドリンク・パスタなど)は予約なしで気軽にご利用いただけます。ぜひ、農産物の持ち味を引き出した料理を味わいに、小別沢までお越しください。

▶篠路町拓北で代々営農する大規模農家

○兼業農家を経て60代から専業農家。昔は、水田・タマネギ・乳牛が中心でしたが、現在は品目を変え、規模も拡大して法人化。100ha超の営農地で小麦(70ha)野菜(30種~)水稻栽培のほか、もぎとりなどの農業体験や市民農園などにも取組む複合経営を行っています。

▶付加価値化と販売機会確保、農家レストランを開設

○規模拡大に伴って従業員も多くなり、販売の付加価値化や、農業体験と結び付けた販売機会の確保をねらい、既存の農業交流施設で直売や加工販売に取組んでいましたが、さらなる付加価値化のため、制度を活用して新しい農業交流施設を開設しました。(直売は新規施設に統合)

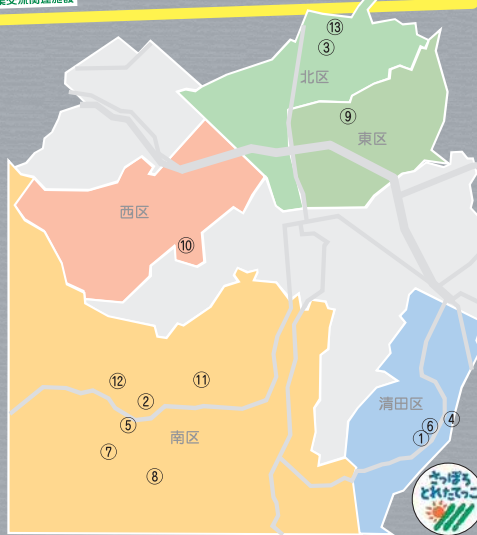
○レストランでは、農園でその時期に採れる野菜で週替わりのメニューを作り、野菜のプレートランチを中心に提供しています。玄米ごはんも味わえるヘルシーな内容で、近所の方にも好評いただいています。

▶複合経営を活かして、リピーター作りを行っていく

○自社は、大規模かつ多品目生産で直売や農家レストランにも取組んでおり、恵まれたロケーションの中で農業体験等ができる、札幌では数少ない農園です。是非一度お越しください。また、様々な経歴の経験豊富なスタッフが多数いますので、農業自体に興味のある方もお待ちしております。



ここにあります！
「農業交流施設」



農業交流施設の一覧 ※現在、開設しているもの

No.	名称等	所在地	開設者	開設年	内容	電話番号
1	農園の四季	清田区 有明215番1ほか	永光 克義	H18	野菜等の直売 ソバ等の加工販売	011-883-6892
2	そばと旬菜の農園 花見月	南区 藤舞604番1	柿崎 春子	H20	野菜等の直売 ソバの加工販売	011-596-2933
3	農家の直売とれたす。	北区 篠路町拓北82番16	木田 紀代子	H25	野菜の直売 (地域の野菜含む)	011-771-3536
4	農家の茶屋 自然海産倶楽部	清田区 有明187番4ほか	㈱フラワーフาร์ม 大花園	H25	イチゴ、トマト等の直売 イチゴパフェ等の加工販売	011-883-6886
5	アルシェフェルム	南区 豊滝420番1ほか	㈱アルシェ	H25	野菜、果樹類の直売 (小果樹苗木を含む)	090-8900-2621
6	COCCO terrace (コココテラス)	清田区 有明215番1ほか	㈱永光農園	H26	卵の直売・加工販売 (シフォンケーキ、プリン等)	011-886-7204
7	自然野菜等販売所	南区 豊滝98番2	㈱豊滝自然農園	H28	野菜の直売	011-511-6161
8	おうちごはん野の	南区 藤舞94番2	池田 奈穂子	H29	野菜等の加工販売 (定食類、米を含む)	090-9436-5256
9	ピリカ札幌	東区 丘珠町847番1ほか	㈱Jファーム ㈱アド・ワン・ファーム	H30	トマト、ベヒーリーフの直売	090-1646-8269
10	AGRISCAPE (アグリスケープ)	西区 小別沢175番2ほか	㈱AGRISCAPE	H31	野菜、卵、肉類の直売・加工販売 (コース料理、スモークチキン等)	011-676-8445
11	one_s fruits farm (ワンズフルーツファーム)	南区 白川1814-108番	古岡浩自	R2	野菜類、果樹の直売・加工販売 (ハフエ、スープ等)	090-6871-6278
12	八剣山 キッチン&マルシェ	南区 砥山150	㈱八剣山ファーム	R2	野菜類、果樹の直売・加工販売 (軽食、ワイン、ジャム等)	011-596-5778
13	ファームレストラン ベジタペール	北区 篠路町拓北243番2	北海道・ 藤井ファーム・ラボ㈱	R3	米・野菜・花の直売・加工販売 (黒んにく・三升漬、プレートランチ等)	011-792-0330

→詳細は、各施設への電話またはホームページ等にてご確認ください。(SNSなど含む)。
→(農業者の方へ) 認定の相談は随時受け付けています。詳細は農政課までご連絡ください。



ベジタペール。この日のランチにはカボチャ・ピーズ・ダイコン・キュウリ・ネギなどを使用。直売も充実



八剣山K&M。加工品と地域野菜が並ぶ。外にはドウ燻が



野の。ほっとするような定食。まめに通りリピーターもいるとか。ここも里山的景観が色濃い地域で、市街の喧騒とは無縁の場所だ



農産加工を中心とした
地域振興の発信拠点
「八剣山キッチン
&マルシェ」
亀和田俊一さん



営業時間 11:00~17:00
※直売は10:00~17:00
※通年営業、不定休



素朴で自然で温かい
普通の家料理

「おうちごはん 野の」
池田奈穂子さん

左は、夫で役員の中神さん
仲睦まじいお二人

▶地域振興策を検討し、農業法人を設立

○2010年、シンポジウム「八剣山周辺地域の地元資源とその活用」を開催。地域振興として観光+農産加工の方向を定め、土地を開墾、その後、農業法人を設立しました。認定制度が、地域農産物も扱えるよう改正されたことを機に、これを活用し農業交流施設を開設しました。

▶ブドウの栽培・加工・流通の総合技術を独学

○ブドウは寒冷地向けのほかアメリカ系ハイブリッドなど試験的なものを含め約30品種を栽培。技術習得にあたっては、栽培・加工・流通まで含めた米国の総合技術書の翻訳出版を行い、内容を実践し、醸造免許取得時にも自身の技術として説明。現在も本書に従い栽培や加工に取り組んでいます。また、食品機能性が高いカラーピーズも数品種作っています。

▶農業や人材育成で、地域産業を確立したい

○醸造は設備投資が伴うため、付加価値化を行わないことには経営が成立しません。売上の6割はレストラン、残りは卸販売などですが、地域の農産物販売や敷地内で開催する青空市の売上も伸びており、手ごたえを感じています。

○地域産業を確立して、帰ってこられる場所・美しいふるさとづくりが目標。課題は人材育成ですが、こちらはゆっくりとやっています。今後とも、ワイナリーを通じて、農業の楽しさを伝えていければと思います。

▶荒地を開墾した父の農的暮らしを継ぐ

○30年前、60才だった父がこの地を開墾し、農的暮らしを始めました。生前の父が「もっと早く農業を始めればよかった」と言っていたことや、かつて自分のアレルギー症状が自然食で改善したことを思い、自分が食べたいものを作るため、定年前に教員を辞めて就農し、その後、農業交流施設を開設しました。

▶無農薬・化学肥料未使用の自然栽培、自然食

○父が実践していた無農薬・化学肥料未使用の野菜栽培。親の見よう見まねで始めましたが、基本は手探りでやっていて、自家採種をする品目もあります。お店では、自家製野菜と卵中心の自然食料理を提供しています。※卵は弟が継いだ平飼養鶏の有精卵を使用。

▶コンセプトを大事に食農交流、加工体験も

○昔からレシписクラップやたくさん作る家庭料理が好きでした。何事も継続させるには、共感できる中間の存在が重要ですが、おかげさまで店のリピーターになって応援してくれる方もいます。

○最近は、味噌づくりなどの加工体験の場も開催。今後も自分で作った野菜を活用していければと思います。市街地から離れた所ですが、時間の許すかぎり、ゆっくりと食事をしていってください。



市民農業講座



さっぽろ農学校

さっぽろ農学校専修コースは市民のための農業講座です

具体的に何をしますの？

主任講師（専門知識を有した北海道OB職員等）の指導のもと、作物栽培について1から指導を受けることができます。受講生全員で管理する〔共同圃場〕と受講生1人1人に割り振られる30㎡程度の〔個人圃場〕があり、種まきから収穫までの過程をすべて屋外（露地・ハウス）で学んでいきます。そして、それ以外にも病害虫や肥料等の専門的知識を養う“座学講義”、自分たちで収穫した作物を実際に販売する“販売実習”を行います。

令和3年度

私は障が
組みたいと
一緒に学
かけあって
日々のすべ



湯川研一さん

専修コースの頻度は？

4月～11月までの毎週土曜日に講座（9時～15時）を行っています。また、6月～9月までは、農繁期であるため毎週水曜日、午前中も行っていきます。（水曜日の参加は任意）

受講対象者は？

作物栽培に興味関心がある15歳以上の方であれば誰でも受講可能です。下記のような方におすすめします。

- ・新規就農をするために農業技術を学びたい！
- ・農業後継者であり、作物栽培の知識を養いたい！
- ・農業法人への就職を考えている！
- ・レベルの高い家庭菜園を作って、今後の農業ボランティアにつなげたい！

終了した後はどうなるの？

修了生のうち、道内各地で就農する方が毎年数名いたり、農業法人に就職したり、札幌市内の小学校等へ農業ボランティアとして活動する方もいます。また、家庭菜園のレベルがかなりアップしたという方もいて、それぞれ農的活動を楽しんでいます。

近年の応募状況は？

コロナ渦での農業ブームも相まって、令和3年度受講生募集では、定員24名のところ定員以上の応募数となり、厳選なる書類選考の結果、受講生が決定しました。

令和4年度の募集はこちら！



専修コース って知ってますか？

！ あなたも本格的な野菜づくりを学んでみませんか？

専修生にうかがいました！

社会福祉サービスの代表をやっており、事業の一環で農業に取り組む思い、基礎知識を学ぶために専修コースに応募しました。同じ専修同期、学びを支える講師、ボランティア、職員。皆さん声をかけてくれる優しい環境でした。コロナ禍でも工夫しながら学べたことが素晴らしい体験です。



近藤健志さん

担当職員から

種まきからスタートし、自分たちの作った作物が消費者に届くまでの経験を出来るのは、かなり貴重だと思います！！

令和3年度は暑い日が続き、屋外での作業はとっても大変でしたが、熱心に作業に励む受講生の姿が印象的でした！！



経済観光局農政部
農業支援センター 鎌田

以前から自給農に興味があり一から農業を学べる所を探しておりました。ネットで「さっぽろ農学校」の存在を知り、不安等もありましたが思い切って専修コースに応募し約8ヶ月間学ばせて頂きました。農業素人の私にも職員の皆さんや講師の方々の手取り足取り、親切丁寧にご指導頂いたので大満足の農業体験ができました。

農業にご興味がある方はお勧めの講座です。



複数の講師陣でサポート



たくさんの収穫物
(受講生で分け合い)



幻のイチゴ「サトホロ」も収穫



定期的に座学講義も実施

さっぽろ農学校入門コースについて



「まずは基礎的な知識を養いたい!」「いきなり専修コースに行くのは不安」という方は「さっぽろ農学校入門コース」という座学みのコースもあります。

サッポロさとらんどにて募集しますので(募集開始は2月10日(木)から。)下記までお問い合わせください。

●サッポロさとらんど TEL:011-787-0223 HP:<http://www.satoland.com>

さっぽろ農学校 専修コース

受講したい場合は
どうすればいいの？



Twitter



公式HP

令和4年度さっぽろ農学校専修コース募集については、以下のサイトや公式Twitterをご覧ください。(募集開始は令和4年2月10日(木)。)

●札幌市ホームページ

<https://www.city.sapporo.jp/keizai/nogyo/center/nougaku/#boshu>

●市民農業講座「さっぽろ農学校」(専修コース)公式Twitter

@sapporo_nougaku

その他、各区役所や区民センターにも関連資料を配架しております！

お問い合わせ先：札幌市農業支援センター TEL:011-787-2220

お知らせ（農業者の皆様へ）

各種補助事業のご案内

◎環境保全型農業直接支援制度

化学肥料・化学合成農薬の5割低減の取り組みとセットで、地球温暖化防止や生物多様性保全に効果の高い営農活動（緑肥作付、堆肥施用、有機農業など）に取り組む場合に、交付金による直接支援を行う制度です。

◎強い農業・担い手づくり総合支援交付金（地域担い手育成支援タイプ）

人・農地プランに位置付けられた中心経営体等（重大な気象災害による被災農業者を含む。）が融資等を受け農業用機械などを導入する際、農水省の交付金による支援を行う事業です。

交付金額：事業費の3/10以内（300万円を上限）

◎札幌市農業基盤整備事業

国・道費補助事業の採択要件に満たない事業を対象に、札幌の農業生産振興に寄与する農家等に、パイプハウスや電気柵等を予算の範囲内で助成をする事業です。

毎年多数の申請がありますので、お問い合わせをいただいてから事業実施までに期間を要します。

※上記の3つの制度とも、対象となる事業内容や、区域、補助率などに違いがあります。詳細は下記担当係までお問い合わせください。

【農業支援センター農産係】 787-2220

土壌診断のお申込み

農業支援センターでは土壌化学性の分析を行っており、分析値から土壌診断を実施しています。定期的に土壌診断を受けて適性施肥を継続することで、健全な土壌状態の維持、作物の品質や収量の向上、施肥コスト削減が期待できます。

【分析項目】 pH, EC, CEC（保肥力）、有効態リン酸、交換性石灰・苦土・加里など

【土壌診断】 「北海道施肥ガイド」などに基づき実施（作付け予定にあわせた施肥設計を提案。）

【実施対象】 市内の農業者

【料金】 1検体1,500円（土壌分析～診断一式）

【期間】 通年実施、受付後2～3週間で結果通知
※混雑時（11月頃）は結果通知まで1カ月以上かかる場合があります。

【申込方法】 札幌市農業協同組合の組合員の方は、同組合の各経済センターへお申し込みください。その他の方は、直接農業支援センターにお問い合わせください。

【農業支援センター地域支援係】 787-2220

地産地消推進事業補助金のご案内

札幌市では、安全・安心な農畜産物の生産と地産地消への取り組みの推進を目的として、「札幌市地産地消事業補助金」の交付事業を実施しております。

【補助対象者】

市内の「さっぽろハーベストランド」（石狩管内JAグループの農畜産物ブランド）についての事業を行う農協等の団体や、市内の農業振興地域内の生産者で、安全・安心な農畜産物の生産と地産地消に取り組んでいる方

【主な補助対象区分】

- ① 地産地消の啓蒙普及（パンフ作成や消費者交流の経費など）
- ② 農畜産物の生産・流通情報管理（商品情報管理に関する機器など）
- ③ 農畜産物の審査・認証（農産物の審査・認証に係る経費など）
- ④ 機器等（化学合成農薬及び化学合成肥料の削減に繋がる機器など）

【補助率】 1/2以内

交付対象となる取り組みの詳細、申請方法については直接農業支援センターにお問い合わせください。

【農業支援センター地域支援係】 787-2220



お知らせ（農業者の皆様へ）

認定市民農園の開設を支援します～農地の保全・有効活用～

■市民農園とは？

農地を100区画程度に分け、野菜や花などを育てる菜園として一般の方に利用してもらう仕組みです。利用料は、1区画50㎡の場合で10,000円程度となっています。

■認定市民農園の開設を支援

札幌市が認定する市民農園の開設に必要な手続きや施設整備費補助の支援を行っています（費用の1/2、上限50万円）。また、札幌市役所公式ホームページ等に利用者募集情報を掲載します。

※開設には農地の立地等諸条件があります。詳細はホームページ、または担当まで。

<https://www.city.sapporo.jp/keizai/nogyo/>

市民農園のイメージ図



【農政課調整係】211-2406

第2次さっぽろ都市農業ビジョンの中間報告

計画期間10年間のうち、前期5年間の終わることから中間評価を行いました。中間評価報告書を札幌市役所公式ホームページで公開しています。

<https://www.city.sapporo.jp/keizai/nogyo/vision/documents/houkokusyo.pdf>

【農政課調整係】211-2406

高病原性鳥インフルエンザの発生を防止しましょう



～鶏やあひる等の飼養者の皆様へ～

秋以降、渡り鳥が南下し、国内における高病原性鳥インフルエンザの発生リスクが高くなります。

原因となるウイルスが農場や鶏舎内へ持ち込まれないよう、施設の整備・点検による野生動物の侵入防止や、人・物・車両の洗浄・消毒など、衛生管理対策を徹底してください。

また、毎日の健康観察を徹底し、鶏が一度に多数死亡したり、高病原性鳥インフルエンザを疑う症状を確認した時は、速やかに石狩家畜保健衛生所（011-851-4779）までご連絡ください。

※夜間及び土日祝日は道庁代表電話（011-231-4111）

～市民の皆様へ～

鳥インフルエンザウイルスは、感染した鳥と濃厚な接触をした場合を除き、人には感染しないと考えられています。以下の点にご注意ください。

- ① 衰弱や、死亡した野鳥を見つけた場合は、素手で触らないようにしましょう。
- ② 野鳥の排せつ物などに触れた後は、手洗いとうがいをしましょう。
- ③ 水辺（川、湖）に立ち寄った場合は、野鳥の糞を踏んでいる可能性がありますので、ウイルス拡散を防止するため、靴底を洗いましょう。
- ④ 野生動物には決して餌などを与えず、近づかないようにそっと見守りましょう。
- ⑤ 同じ場所でたくさんの野鳥が死んでいた場合（カモ類やツル類、猛禽類の場合は1羽でも）は、石狩振興局環境生活課（011-204-5825）までご連絡ください。

※夜間及び土日祝日は道庁代表電話（011-231-4111）

【農業支援センター畜産担当】787-2220

お知らせ (農業者の皆様へ)

農地利用最適化推進委員をご紹介します【第1地区(北区)】

札幌市では、17名の農地利用最適化推進委員が、「農地等の利用の最適化を推進」することを目的として、それぞれの担当エリアで現場活動を行っています。

【主な活動内容】

- ①担い手への農地利用の集約化
- ②遊休農地の発生防止・解消
- ③新規就農・新規参入の促進

農業者の皆様幅広く知っていただくため、今号から推進委員を地区ごとにご紹介します。今回は、第1地区(北区)を担当する5名です。

農地に関するお悩み・ご相談等がありましたら、お住まいのエリアの農地利用最適化推進委員または農業委員会事務局(211-3636)にご連絡ください。

おおがゆ まさる 担当エリア 篠路・拓北(北部) 東茨戸
大萱生 勝 委員

営農年数：49年
生産作物：タマネギ
経営面積：約8ヘクタール

応募のきっかけ

札幌市の農業のあり方について考えていきたいと思い、推進委員になりました。農地パトロールを通じて、活用されていない農地や荒廃した農地の多さに驚きました。

農業者の皆さんへのメッセージ

農業には、農作物を生産するだけでなく、環境を保全するという側面があります。



これからも農業者の皆さんが農業を継続していけるよう、そのお手伝いできればと思います。

みやもと さかえ 担当エリア 屯田町・西茨戸
宮本 栄 委員

営農年数：15年
生産作物：トマト、米、麦、小豆等
経営面積：約20ヘクタール

応募のきっかけ

明治22年に屯田の地に入植した農家の5代目です。代々引き継がれてきた農地を守るため、地域農業の発展のため、多角的な視点をもって貢献したいと思い応募しました。

推進委員活動を通して感じる事

都市化が進む中で、残された農地を有効に活用できるよう、現在の地域農業における課題を明らかにし、他の委員の皆さんと協力して解決策を見つけ、実践していきたいと思っています。



こんどう かつよし 担当エリア 新琴似町・新川
近藤 克宜 委員

営農年数：29年
生産作物：牧草
経営面積：約15ヘクタール

応募のきっかけ

父が農業委員をしていたこともあり、推進委員として地域のために活動したいと思い応募しました。

推進委員活動を通して感じる事

農業者の高齢化が進む一方で、積極的に規模を拡大している農業法人もあり、頼もしく感じています。農地パトロールを通じて、何年も手つかずのまま荒れ果てた農地の多さに驚いています。



今後、このような農地が有効活用されるよう、推進委員としてその一翼を担えればと思います。

さわだ よしゆき 担当エリア 上篠路・太平
澤田 喜幸 委員

営農年数：40数年
生産作物：タマネギ等
経営面積：約7ヘクタール

応募のきっかけ

市内の農地を守るため、少しでも力になれればと思い応募しました。担当エリア内でも意外と知らない場所があり、日々勉強しています。

農業者の皆さんへのメッセージ

市内では、都市化の波や農業者の高齢化が進み、年々作物が栽培されずに遊休農地となる土地が増加しています。

健康に気を付け、少しでも長く農業を続けて農地を守っていただきたいと思っています。



たけだ やすのり 担当エリア 拓北(南部)・福移
武田 泰典 委員

営農年数：15年
生産作物：パレイシヨ、トウキビ、アスパラ等
経営面積：約2.4ヘクタール

推進委員活動を通して感じる事

今後は離農される方が多く、遊休農地の増加が懸念されます。JAや農業委員と意見交換をしながら、農地の有効活用のため尽力していきます。

また、新規で就農された方々とのコミュニケーションを大切に、積極的に支援したいと考えています。

農業者の皆さんへのメッセージ

先人が作り上げた豊かな土で、これからも安心・安全で身体に美味しい野菜作りをしていきましょう。

